

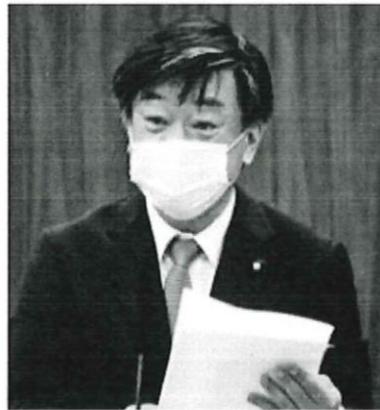
足立議員 出水期を控え

治水 改めて問い質す

足立敏之参院議員は、22日の参院国土交通委員会、出水期を控え河川整備基本方針の見直しや流域治水の考え方を改めて問い質した。写真。国土交通省は河川整備基本方針の見直しについて「新宮川や五ヶ瀬川など、近年水害が発生した

際の洪水流量が、現行の河川整備方針で定める基本高水を上回った水系から順次着手していく」との方針を示した。国交省は、気候変動の影響で水災害が激甚化する予測。河川整備基本方針を従来の過去の降雨実績に基づくものから、

気候変動による降雨量の増加などを考慮したものに直す。専門家による検討会からは、過去に経験したことのない雨の降り方を考慮して、基本高水を設定すべきとする見解が示されている。「（都市部で実施してき



た総合治水に対して）気候変動による降雨量の増大に対応するため全国の河川で実施する」と説明。流域のあらゆる関係者が協働し、河川整備、ダム

の事前放流、雨水貯留対策の強化、浸水リスクの高いエリアでの立地規制を求めた。

などを総合的に実施していくとした。

足立議員は「21世紀末の日降水量（200ミリ以上の発生回数）は20世紀末の1・5倍に